

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

**評価結果報告書****地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4672000058
法人名	社会福祉法人 尚徳会
事業所名	グループホーム 遊花里
訪問調査日	平成21年2月26日
評価確定日	平成21年3月31日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

**項目番号について**

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 2009年3月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4672000058		
法人名	社会福祉法人 尚徳会		
事業所名	グループホーム 遊花里		
所在地	鹿児島県指宿市山川岡児ヶ水1211 (電話) 0993 - 35 - 0220		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(20年12月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22人	常勤	18人, 非常勤 4人, 常勤換算 14人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 木造 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21000円(特室30000円)	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1080	円	

### (4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	2名	要介護4	5名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 87.2 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	橋口医院、濱田歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

風光明媚な丘陵地帯にグループホームがあり、母体の特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、訪問介護ステーション、在宅介護支援センターを併設し、地域の高齢者福祉を担ってきた。法人自体は開設25年目を迎え、グループホームも10年目を迎える。周りは温泉地のため、別荘も多い、高齢化の進む地域のニーズに応え、認知症の方が、住み慣れた環境の中で心身のフォローに努め、安心と慣れ親しんだ暮らし方を継続することの大切さをホーム運営の原点においている。入居前から法人の運営するサービスに関わってきた利用者も多く、家族も含め、入居前から職員となじみの関係ができており、利用者及び家族の安心にもつながっている。職員も異動はあるが離職は少なく、法人全体の研修も充実しており、ほとんどの職員が有資格者のため、介護などの知識、経験が豊富で、ゆとりある質の高いケアがなされている。利用者全員が参加できる運営推進会議を設けたり、月1回利用者の声を聞く意見交換会など、利用者の声を拾い上げることに努めており、利用者の喜びが職員の励みにも繋がっている。開設10年目を迎え、地域密着型サービスのリーダー的存在として更に充実したグループホーム運営が期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域とのつきあい」で管理者は在宅で認知症ケアに携わっている家庭を訪問し、事業所としての支援に関する知識や実践経験を話し、積極的に地域貢献に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を理解しながら、全職員で自己評価に取り組んだ。振り返りや気づきを日々のケアに取り入れて、サービスの質の向上に活かされている。また、ホームの特徴を再確認でき、全職員に浸透し、意義のあるものとなっている。自己評価、外部評価の結果は玄関に置き、来訪者が自由に閲覧できるようにしてある。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 利用者、家族代表、民生委員、介護保険係職員、在宅介護支援センター職員などの参加を得て2か月に1回行っている。内容はホームの状況、行事、ヒヤリハット報告などで行政から事例についてのアドバイスや情報をもらい、サービス向上に活かしている。また、1年に1回ではあるが、利用者全員が参加する運営推進会議も設けており、あらゆる方向からの意見、希望をホームのサービス向上に活かせるように取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 運営者、管理者は家族などの意見を吸い上げる重要性を認識し、家族来訪時や電話などで気軽に意見、要望が出せるように配慮している。家族から、レベル低下に伴って起こりうる事態(転倒など)についての意見が出たが、本人の意思を尊重し、職員全員の見守りなどで自由な暮らしが確保できるように説明するなど、出された意見、要望については必ず職員で話し合い、結果は家族に伝えるようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 年2回の総合防災訓練に地域の方々にも声かけし、協力をお願いしている。法人全体の運動会、地域交流事業コンサートや講演会などに地域の方々も招待し、交流に努めている。また、地域の保育園、小中学校の介護体験授業の受け入れもしており、子供たちとの交流もある。本年度は法人の開設25周年事業として、秋祭りを計画している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基にし、グループホーム独自の理念を職員全員で話し合って作り上げた。地域密着型サービスとして、地域との交流の大切さもうたった理念である。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に、常に利用者を中心にしたケアを実践するため理念を唱和し、日々確認している。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人全体の運動会、地域交流事業コンサートや講演会などに地域の方々も招待し、交流に努めている。また、地域の保育園、小中学校の介護体験授業の受け入れもしており、子供たちとの交流もある。本年度は法人の開設25周年事業として、秋祭りを計画している。管理者は地域貢献として、在宅で認知症の方を抱えている家を訪問し、困っていることや、何か役にたつことはないか話を聞き、事業所として知識、実践経験を地域に還元している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングなどを利用し、職員全員で取り組んだ。日々のケアを見直す機会とホームの特徴を再確認でき、全職員に浸透し、意義のあるものとなっている。自己評価、外部評価の結果は玄関に置き、来訪者が自由に閲覧できるようにしてある。運営推進会議でも報告している。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族代表、民生委員、介護保険係職員、在宅介護支援センター職員などの参加を得て2か月に1回行っている。内容はホームの状況、行事、ヒヤリハット報告などで行政から事例についてのアドバイスや情報をもらうなど、運営推進会議をおこなうことで行政との距離が近くなった。また、1年に1回ではあるが、利用者全員が参加する運営推進会議も設けており、あらゆる方向からの意見をホームのサービス向上に活かせるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からの依頼に応じたり、市の担当者に運営、サービスについて相談しながら連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヵ月に1回「ゆうかりメール」にて日頃の暮らしぶりや状態報告を行っている。毎月の支払いを持参してもらっているため、面会時にも報告している。遠方の家族には電話にて連絡しており、突発的な体調不良などは随時電話連絡している。金銭管理は出納帳を面会時に確認してもらい、サインをもらっている。職員異動は面会時とゆうかりメールで本人の挨拶文を載せている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けている。また、重要事項説明書にも第三者の窓口を明記している。家族から、レベル低下に伴って起こりうる事態(転倒など)についての意見が出たが、本人の意思を尊重し、職員全員の見守りなどで自由な暮らしが確保できるように説明するなど、出された意見、要望については必ず職員で話し合い、結果は家族に伝えるようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係の大切さは理解している。マンネリ化防止のために法人内異動もあるが、法人全体の行事参加と、入居前に法人が運営している他のサービスを受けていた利用者が多く、ほとんどの職員と既に顔なじみである。また、ダメージを受けないためにも、利用者がなじみの職員による支援を受けられるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、法人で行われる定期的な研修、職員同士の勉強会など、充実した研修が行われており、職員の技術、知識の向上に努めている。新人の育成も法人で行われており、しっかりと知識、技術を身につけてから配属するなど徹底した職員育成ができています。資格取得へ向けての勉強会も法人で行うなどしっかりと支援がなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	指宿地区地域密着型連絡協議会に加入している。勉強会や運営内容の意見交換など行い、交流と相互訪問など行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人の運営する他のサービスを受けている方が在宅介護支援センターを通じて入居となることが多く、職員や場の雰囲気に既になれている利用者が多いが、入居の際は自宅を訪問して生活歴を把握し、ホームのお茶の時間を利用して家族と一緒に見学に来てもらい、利用者との顔合わせも兼ねて本人、家族が納得して利用してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩と敬い、団子作り、干し大根作り、餅つきなど、利用者の長年の経験からの勘に驚かされたり、教わったりしながら支えあっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中でその人の携ってきた仕事の話や得意なこと本人の思いを知ること努めている。また、月1回利用者の希望をきく機会として意見交換会を設けている。外出の希望や菜園の管理について意見が出る。希望表出できない利用者にはこちらから話題を投げかけてみて動作や表情から察知するように努めている。不安があることばに出るので、部屋でゆっくりと話をするようにしている。本人のことばを記録し、何を望んでいるのか職員で考え共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望と、本人の状態や生活歴を聞き、身体的な介護を第一に喜び、楽しみごとを取り入れた利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有し、状態が変化した場合はその都度計画の見直しをおこなっている。特に大きな変化がない場合は6ヵ月ごとに見直ししている。入退院後の見直しもやっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携・体制をとっている。本人、家族の状況に応じて病院受診や自宅訪問など必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医による受診を支援している。また、週2回主治医の往診があり、24時間体制の連絡体制ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期についての指針を家族に説明し、同意書をもらい、事業所として最善の対応ができるように取り組んでいる。職員は緊急時について、マニュアルの作成と急変時の勉強会も行い、方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護について職員研修を定期的に行っている。新規採用時は誓約書ももらっている。記録の取り扱いについてはスタッフルームで管理し、日々の記録は直接パソコンに入力している。利用者の尊厳を大切に丁寧な声かけとゆったりとした態度で対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や希望に合わせて、状態や思いに配慮しながら利用者のペースで生活できるように支援している。まず、利用者の気持ちを大事にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳、下ごしらえなどできることを手伝ってもらうなど職員と一緒にいき、さりげなくサポートしながら食事をとめている。また、食器洗いをしてもらっている姿を写真にとって園便りで送ることもある。時には、家庭菜園で育てた野菜を利用者と一緒に収穫して食卓に出すと会話ははずみ、更に楽しい食事ができている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3、4回のペースだが、本人の希望に沿った入浴の支援をしている。夜間不眠の利用者には就寝前に足浴をしてもらっている。入浴拒否の利用者には声かけや会話で誘導し入浴してもらうなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日頃の会話や生活の中から本人の好きなことや役割をみつけてるように努めている。畑仕事、花壇作り、洗濯物たたみ、タオル干しなどそれぞれの役割やカラオケ、お化粧、晩酌など楽しみごとの支援もおこなっている。晩酌は月1回併設の施設で居酒屋が設けられ、利用者の楽しみになっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、ときには利用者の希望するおやつを買いに行ったりと希望に沿って外出できるような支援を行っている。また、天気のいい日は屋外でテーブルを囲み、食事やお茶を楽しんでいる。ときには、ソーメン流し、花見、初詣、近くのフラワーパークに出かけるなど機会を見つけて遠出も楽しめるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解している。在園確認チェック表を作成し、時間ごとに確認し、利用者のプライバシーに配慮しながら見守り、安全に自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導のもと、夜間想定で近隣の住民にも声かけし、総合防災訓練を行っている。他にも、年2回法人で緊急連絡網を活用し、召集訓練も行っている。また、ホーム単独でも月1回火災、地震を想定し、避難訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の記録と月1回体重測定を行い、一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に応じてトロミ食、刻み食、ミキサー、おかゆなど取り入れている。栄養バランスは法人の管理栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間であるリビングは広く温度調節や換気、掃除など行き届いている。季節の飾り物や、すわり心地のいいソファやテレビを配置し、居心地良く過ごせる共用空間作りとなっている。浴室、トイレなど身体機能を活かし、自立した生活が送れるよう配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	姿見、遺影、お位牌や小物、写真などを飾り、その人らしい居室作りができている。また、身体状況に応じた居室選びもできるように支援している。		